貫井の風

令和４年度　１月号

ＮＯ．９

練馬区立貫井中学校　学校だより

稽古に泣いて土俵に笑う 尾車浩一（尾車部屋親方）

一番怖いのはケガでもないし、病気でもない。他人でもない。自分自身です。

ただ、私も人間ですから、最初から「やってやろう」なんて思っていないわけです。凡人ですから、「終わったな」「無理だな」「もうダメだな」と思うこともあった。

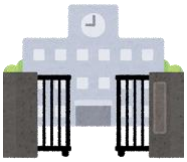
そこで何かのために頑張るというものを常にもっている人でないとダメだと思います。今回私は弟子のために稽古場に戻らなければならない。もう一度家族に笑いを取り戻したいと。そして願わくば、お世話になった相撲業界にご恩返しするために、もう一度働きたいと言うことが大きな目的でした。自分のためにやることは、所詮甘いです。自分は楽を選びたいもの。嫌ですよ。辛いことは。

稽古中もそうです。親方に「ほら琴風、四股を二百回踏め」と言われると、二百回踏んだ後に、「お袋のためにもう二十回」「俺の出世を待っているおばあちゃんのためにもう二十回」と、そうやって四股を踏んできたんですよ。それがプロの世界、競争の世界です。

だから弟子たちにも言うんです。稽古が終わった後、礼儀として親方である私に「どうもごっつあんでした」と挨拶に来る。その時、「ここまではおまえがやったんじゃないよ。親方が言うからやったんでしょ。ここまではやらされたんだ。ここからおまえが誰のために頑張るかだよ」と。

一日十回余計に四股を踏む。一年で三六五〇回です。この三六五〇回を大晦日一日で取り戻せませんよ。この少しの差が人との差になるんです。でも、これは自分のためだったらやれていなかったと思います。だから私は今、五六歳になってもう一度土俵に上がっているような心境です。おかげさんでこのけがは一日でも怠けると元に戻るというか、三日も寝ていたら歩けなくなる。

以前は弟子を育て、ある程度相撲界にご恩返しができた後は、女房とのんびり過ごしたいなと思っていましたが、こうなった以上、「一生休むな」と決められた人生なんだろうなと思っています。



だからこそ、「私は死ぬまで一度もケガや病気がなく、良い人生だった」と言って亡くなっていく人、もちろんそれが最高ですが、ケガをしてしまった以上、そういう方々にも負けないくらい、良い人生にしたいと思っています。

現役時代、サインを求められると「稽古に泣いて土俵に笑う」と書いていました。ケガをして休場したときは、「この日のことを笑って話せる日が来るまで絶対に泣かないぞ、諦めないぞ」と思ってリハビリをしてきました。今回も一緒です。このケガによって私も、弟子も家族も、一度は笑いを失いました。だけどもう一度心からの笑顔を、笑いを取り戻したい。最後には絶対に笑ってやる。「ケガに泣いて、最後に笑う」今はそんな気持ちです。（自らのケガを振り返り）

受験シーズン到来！

教職についてから、入試の時期になると毎年思い出すのが、自分が高校を受験した時のことです。何と前日に３９度の熱を出し、自分ではどうにもならない健康状態となってしまったのです。

気持ちが落ち着かず、もの凄く焦りました。たぶん自分以上に親が慌てたと思います。たまたま父親の仲の良い小学校時代の友人にお医者さんがおり、緊急の連絡を取ってくれました。

診察時間はとっくに終わっていましたが、特別に診てもらいました。未だに忘れられませんが、信じられないぐらい太い注射を２本打ってもらいました。「これで熱は下がる。大丈夫。明日は受験できる。」とお医者さんは言ってくれました。しかも注射を打つ際にわざわざ痛みを感じない工夫までしてくれたのです。有り難かった。

熱は３７度５分ぐらいまで一気に下がりました。そして翌日、熱は少しあるものの何とか受験に臨むことができました。ただ、体はフラフラしており、「ボーッ」とした状態でした。

自分の田舎（北海道）では入試の日程が２日間に分けられ、５教科で実施されていました。どちらの日もその日の最初の教科が熱の影響なのか、試験が開始されても、思うように回答できない時間帯が続き、実力はまったくといって良いぐらいに発揮できませんでした。

国語の問題などは、たった３行程度の問題文を読むのに、ものすごく時間がかかりました。そして気持ちばかりが焦った。寒さなのか、熱のせいなのか、緊張なのか、体がとにかく震えたことを今も覚えています。それでも何とか入学試験を受けることができた。入試の点数はそれまでに取ったことがないようなひどい点数だった記憶があります。それでも何とか合格できた。運が良かったと思っています。

なぜなら、当時自分の田舎では、高校の募集定員数に対して、中学生の在籍数が大きく上回り、社会的な大問題となっていたのです。自分が住む釧路市内には私立高校は２校しかなく、市内には数校の道立高校があるだけ。そのために、毎年のように中学浪人生が多数出ており、そのことが問題視されていました。自分のクラスの友人も４人中学浪人をして翌年高校に入学をしていました。

この高校の入学試験後に自分が油断していたこと、入試を甘く見ていたことを後悔しました。

しかし、それ以上に人に支えられていることを実感しました。もしあの時に、父親の知り合いにお医者さんがいなかったら、たぶん自分は受験できずに中学浪人していただろう。そう考えると怖くなりました。同時に人の支えの有り難さを強く感じました。このような苦い思い出を毎年、高校入試のシーズンが始まると嫌でも思い出してしまうのです。皆さんは、どうかそのようなことがないようお願いします。「油断大敵」です。

面接練習

３年生の面接練習をしました。多くの子が緊張感一杯の表情で入室をしてきます。また、全く緊張していないような様子の子でも、面接練習後に感想を聞いてみると「イヤーもうどぎまぎして大変でした。」という感想。誰でも面接は緊張するもの。ただ真面目に真摯な姿勢で取り組んでもらいたい。そして、面接官にその意識や姿勢を、態度や言葉遣いを通じてぜひ伝えてほしいものです。

面接練習終了後に「何か質問はありますか？」と尋ねると「どうすれば緊張しないで

すか？」と問いかけられることがあります。答えは決まって「そのような方法はありません。誰でも緊張すると思ってください。」と応えることにしています。面接で緊張しない人なんていません。緊張して当たり前です。我々教職員も今の職に就く際には何度も面接を受けました。教員採用試験だけでなく、教育委員会での面接、採用される学校での面接、その他職種が昇任する際などいろいろな面接を受けてきています。でもそのたびに緊張していました。だから緊張するのは当然なのです。まれに緊張しない人がいるかもしれませんが、わずかだと思います。

ただし、中学生なりの準備はできます。ある程度の質問例に対する回答例を自分なりにつくっておくことは必要です。また、そうすることで練習となり、対策ができ、いろいろな試行錯誤をした経験から、面接試験に対する緊張感を最低限度に抑えることができるかもしれません。

それにしても今年の３年生は各自のいろいろな夢を面接練習で語ってくれ、話を聴いていて大変楽しかったです。そして、将来、その夢が実現していくかどうか、大変楽しみです。夢の実現に向けて、ぜひ精一杯の努力をして欲しいです。

語られた夢の一部を紹介すると、カメラマン、不動産など物件を扱う仕事、美容師、保育士、教師、警察官、農家、絵画教室、通訳、レストランの経営、博物館の学芸員、プロのスポーツ選手とさまざま夢を語ってくれました。

私は夢をもつことは大変重要なことだと思います。なぜなら自分の生き方に大きな力が働いていくような気がしますし、モチベーションの高まりは力強い生き方につながっていくと思うからです。

私は幼い頃にバスやタクシーの運転手になりたいと思っていました。その思いがいつ消えたのか、思い出すことができませんが・・。

生徒の皆さん、自分の夢の実現に向けて突き進んでください。

出前授業（練馬第三小学校）

社会科

授業を行うにあたり、小学校社会科の学習内容を初めて勉強しました。３年生から身近な地域や身近な仕事に注目し、興味関心を高める学習がとても多くあると感じました。

また、中学校で学習する内容と密接に関わっていると感じ、小中連携の重要さを再度痛感しました。

授業を行うのは不安でした。中学３年生で行った授業で、生徒の反応が良かった単元をわかりやすく小学生に行うこととしました。実際に授業を行って感じたことは、以下の３点です。

１点目は、小学生のメリハリの良さ、日々の先生方の指導力の高さを感じました。話を聞くときはタブレットを閉じる、資料を活用するときには著作権に配慮する、児童同士声掛けをして時間を意識して課題に取り組む姿勢が見られました。

２点目は、児童のタブレットの活用能力の高さです。教師が説明しなくても、中学３年生と同等の課題への取り組みができました。

３点目は、児童の明るさと前向きさです。たった４５分間でしたが、授業後には明るい声で「さようなら」と声をかけてくれたり、「中学校の学習が楽しみです」と言ってくれたりする児童がいました。

今回このような機会を頂き、自身の勉強になるとともに、児童から明日への活力をもらう機会となりました。

数学科

練馬第三小学校の６年１組で数学の出前授業をさせてもらいました。『トランプを使ってゲームをしよう！！』というのがテーマでした。

ゲームの内容は、黒色のトランプ（スペード・クローバー）は収入、赤色のトランプ（ハート・ダイヤ）は支出として考え、トランプのババヌキのようにグループでカードを順番に引いていき、最後は自分の手持ちの合計を数えようという内容でした。

１組の児童はみんな積極的にゲームに参加し、大変盛り上がりました。また、自分たちで計算の工夫を考え、グループで助け合う姿が見られました。授業の最後には、中学校の最初の授業で学習する「正の数・負の数」について説明しました。

今回のゲームでどのように計算を工夫したかを質問すると、複数の生徒が挙手して発表してくれました。

「違う色でも同じ数字があったら打ち消しあいます。」という内容は、（＋５）＋（－５）＝０と式で書くことや、「同じ色で１０になるように計算すると計算しやすかった。」と発表してくれた内容は、（＋８）＋（＋２）＝＋１０,（－７）＋（－３）＝－１０のように式を書き同符号で計算することもできるということをまとめました。

不審者侵入対応避難訓練の実施　１／１３(金)

訓練の目標は不審者侵入に気がついた先生が先生同士の連携で緊急放送を入れ、生徒たちを安全な場所へ誘導、避難させること。また、先生方の不審者への対応の仕方。さらにはさすまたの使い方や警察の方からの不審者対応への留意点などについて、生徒たちに向けて放送で説明するなどの事を行いました。

やはりいざ学校に不審者が侵入した場合には、なかなか思うように動けないことが想定されるため、実地的な訓練の必要性を感じました。

なお、訓練は、練馬警察署のスクールサポーターの方々にご来校いただき、実際の事件と誤解されないよう周辺の警察署関係の方々に、予め訓練が実施されることを警察署の方から実施の周知をしていただきました。

第１学年　健全育成講座　１／１３(金)

１年生で「デートDV」について学びました。講座では交際相手から暴力を受けた人数の話があり、驚いたのは１０人中４人が暴力を受けている実態があったことです。中学校１年生ではあまり実感できないことも将来的には人権擁護の学びになるという印象を受けました。講座は、講師の先生方のお話やクイズ、映像を通じて進みました。

最後に暴力と警戒すべき９つのサインについて教えていただきました。９つのサインとは、１萎縮させる、２無視する、３脅す、４操る、５干渉する、６侮辱する、７嫉妬する、８管理する、９孤立させる、です。もし自分自身や友人が被害にあっていると気づいたら相談すべき機関も教えていただきました。